



平成18年3月6日、新久慈市が誕生。大勢の人が見守る中、市役所本庁舎と山形総合支所で開催式が開かれました。

本庁舎では、テープカットとくす玉割りを行い、新市発足と開庁を祝いました。



平成18年3月6日、久慈市と山形村の合併により誕生した新久慈市。「夢・希望・未来に向かって、ひと輝くまち」を目指し、新たなまちづくりをスタートさせてから、本年3月6日で市制施行5周年を迎えます。幾多の災害に見舞われながら、協働の体制づくりや交流活動などを推進した5年間。「より輝くまち」を目指して久慈市はこれからも前に歩みを進めます。(7ページまで)

# 市制施行 5周年

# より輝く ままちへ

## 発展に向けスタート

平成16年10月12日、全国で市町村合併が進む中、久慈市と山形村は合併協議会を設置。慎重な協議を経て両市村は合併し、平成18年3月6日、新久慈市が誕生しました。

新たに掲げたまちの将来像は「夢・希望・未来に向かって、ひと輝くまち」。両市村が育んできた伝統、文化、魅力を引き継ぎ、より発展に向けようと、新たなまちづくりをスタートさせました。

## 雇用などの解決図る

しかし社会情勢は厳しく、少子化などの影響もあって人口は年々減少。まちの景気も低迷が続いています。

市財政の要である国からの地方交付税も年々削減される中、市は業務改善を繰り返し、財政健全化を実施。予算をやり繰りしながら、市の課題解決に取り組んできました。

雇用については、北日本造船(株)久慈工場が平成18年6月に本格操業したのをはじめ、5年間で水産加工関係1社、縫製関係2社の工場立地を誘

## 数字で見る 5年の変化

### 減 人口 (各年3月末)

H18 40,111人  
H22 38,264人  
(-1,847人)

### 減 予算規模 (各年度一般 会計当初予算額)

H18 189億8,142万円  
H22 178億1,430万円  
(-11億6,712万円)

### 増 観光レクリエーション 客入込数 (各年実績)

H18 66万3,135人回  
H22 80万8,842人回  
(+14万5,707人回)

致。既存企業の支援にも努めながら、雇用の創出・確保を図ってきました。

市民生活の向上のため、医療費助成の拡充や保育料軽減を行い、医療・福祉、子育て支援などを充実。大雨や高波など幾多の災害に見舞われながらも、農林水産業の振興や、道路、学校などの社会資本整備にも取り組んできました。

## 協働・交流に効果も

新市となり、特に力を入れたものの一つが「協働」です。平成18年度から地域コミュニティ振興事業を実施し、地域活動を支援。市民協働道路維持補修事業も行い、市民と行政が力を合わせて取り組む体制づくりを進めてきました。

もう一つは「交流」です。山形村から引き継いだ教育旅

## 節目を契機に発展を

行を推進したほか、平成20年4月には、やませ土風館を開館し、地域内外の交流を促進。市がまとめる観光レクリエーション客入込数(右枠)も増加傾向にあり、その効果は着実に表れています。

平成21年7月にはリトニア共和国クライベダ市との姉妹都市締結20周年、平成22年10月にはアメリカ合衆国フランクリン市との姉妹都市締結50周年という記念すべき節目を迎えました。当市も5周年を契機として、さらに発展していかなければなりません。人も地域も産業も「より輝くまち」の実現を目指して、これからも久慈市は、皆さんと一緒に全力でまちづくりを進めます。